

2026 年度大学入学共通テスト 解説〈地理総合, 地理探究〉

第 1 問

解答

問 1	<div>1</div>	④
問 2	<div>2</div>	⑤
問 3	<div>3</div>	②
問 4	<div>4</div>	③

## 解説

### 問 1

正解は④。

北アフリカのモロッコ内陸部でみられる伝統的な生活文化に関する写真についての文章の正誤を判定する。

④は不適當。ナツメヤシの実はデーツと呼ばれ、非常に糖分が多く栄養価が高い。食料事情の厳しい砂漠周辺では、乾燥させて保存食ともなるデーツは重要な自給的作物である。むろん、一部は輸出されるが、ほとんどが食用であり工業用ではない。

①は適當。日干しレンガはアドベと呼ばれる。粘土に水とわらを混ぜて型抜きし天日干しする伝統的な建材である。

②は適當。最大の目的は直射日光や熱風を避けて遮熱することだが、他に砂の侵入防止、建物構造の強度の維持、イスラームの教義に関連した家族のプライバシー保護などの目的も考えられる。

③は適當。北アフリカではフォガラと呼ばれる地下水路による灌漑などでオアシス農業が行われている。

### 問 2

正解は⑤。

西アジア周辺の 3 地点における水の利用に関する説明文を判別して組み合わせる。

アはトルコに水源を持つティグリス・ユーフラテス川流域の都市であり、該当する文は C。外来河川とは、湿潤地域を水源として砂漠を貫流する河川のことで、両河川はその好例である。

イは西アジア最大の産油国サウジアラビアの沿岸都市で、該当する文は A。原油輸出による潤沢な資金により、海水の淡水化プラントや、室内農場などの建設が進められている。

ウはテンシャン山脈などから河川の流れ込むタリム盆地の都市で、該当する文は B。アやイと違い、標高の高い高山には氷河が存在し、降雪もみられる。テンシャン山脈は古期造山帯に属するが、インド半島がユーラシア大陸に衝突した際のエネルギーで再隆起した復活山脈である。また、内陸河川とは、海に流れ込まずに大陸の内部で消滅するか、内陸湖に注ぎ込む河川のことで、B 付近にもタリム川などがある。

### 問 3

正解は②。

資料の雨温図や生活文化の説明に該当する南アメリカ大陸上の地点を選択する。問題文の 1 行目に「緯度や標高の違い」とあり、高山気候を連想させるヒントになっている。リャマやアルパカの毛による織物を利用した貫頭衣であるポンチョも想起してほしい。

②はボリビアの首都ラパス付近。アンデス山脈中のアルティプラノと呼ばれる高原上にあり、標高 3600m を超える地点である。よって、比較的低緯度で気温の年較差は小さいのに、平均気温はきわめて低い（ケッペンの気候区分ではツンドラ ET または高山 H）。また、山脈に囲まれた内陸盆地であるため水蒸気が届かず降水量は多くない。アンデスの標高区分のうち 3500～4000m の範囲は「スニ」とよばれるが、厳しい環境の中でジャガイモの栽培が盛んである。ジャガイモはアンデスを原産とし、低温に強く、やせた土地でも育つ。アンデスの先住民インディオは、夜間に凍らせたジャガイモを昼間に足で踏んで脱水し、チューニョという保存食にする。また、農耕ができない標高 4000m 以上の「プナ」では、ラクダ科の家畜でおもに毛を利用するアルパカや、荷役用のリャマが飼育される。

①はコロンビアの首都ボゴタ付近。ラパス同様に高山地帯に位置する（標高 2500m 付近）が、北半球であるため最寒月は 7 月頃にならない。

③はチリ北部のアタカマ砂漠付近。寒流の影響で乾燥する海岸砂漠であり、降水量はきわめて少ない（ほぼゼロ）。

④はアルゼンチン南部のパタゴニア付近。アンデス山脈を越える偏西風の風下に形成される雨陰砂漠であり、年間降水量は 250mm を下回る。

## 問 4

正解は③。

アジア周辺の家畜の分布図を判別し、文章の空欄補充する語句の選択と組み合わせる。2 問続けて高級な毛織物に関連した出題となった。

羊の図は y。羊は、牛よりも乾燥に強く、アジア周辺では西アジア、中央アジア、モンゴル、中国内陸（新疆ウイグル自治区・内モンゴル自治区）などで飼育される。

牛の図は x。インドではヒンドゥー教における神聖な動物として愛護されており、牛の屠殺はタブーとなっている。また特に水牛は耕作や荷役に使われる役畜として重要である。

空欄 E に当てはまる語句はカ。モンゴルでは、高級毛織物の原料となる毛（カシミア）を採取できるカシミアヤギの飼育がさかんで、需要の高まりに応じた飼育頭数の増加が顕著である。

キは不適。飼育頭数の増加は草地の過剰な利用によって砂漠化を促してしまうので、抑制に向けた対策に逆行する。

第 2 問

解答

問 1	5	②
問 2	6	②
問 3	7	④
問 4	8	②

## 解説

## 問 1

正解は②。

地図中の 3 市における農地や農作物に関する資料について、3 種類の農産品の統計を判別し、組み合わせる。判読内容こそ基本レベルだが、形式が面倒な組合せ式になっており注意が必要である。

米はア。資料 1 中の岩木川の下流域とは、河口の十三湖が位置する五所川原市である。低湿地帯という条件や写真の判読から、水田における米作りが農業の中心となっていることがわかる。

野菜はウ。津軽平野の海岸付近とは、直線的な砂浜海岸を持つつがる市である。水はけの良い砂丘という条件や写真の判読から、造成農地における野菜生産がさかんであることがわかる。

果実はイ。山麓とは、図 1 の a にて標高の高いことを示す濃い色がつけられた南西部（岩木山や白神山地を示す）に近い弘前市である。水はけや日当たりの良い山麓の傾斜地という条件や写真およびキャプションから、果実の中でもリンゴ生産に特化した地域であることがわかる。

## 問 2

正解は②。

津軽平野における灌漑用のため池を示した地図に関して、説明文中の空欄を補充する語句を選んで組み合わせる。図の東半のため池の周囲は等高線が密だが、西側の破線のある水田付近には等高線がほとんどない。

カは「谷口を堰き止めて」。図中のため池は、東側では標高の低い方から高い方へ複雑に入り組んだ等高線に沿った形状を持ち、西側では道路に沿った直線的な人工構造物で区切られている。これは、谷の出口を堰堤で堰き止めて造成された「谷池」と呼ばれるタイプのため池である。

キは「浸水までの時間」。もし、「浸水深」であれば、凡例の等値線は単純に等高線に沿った形状になるはずだが、そうっておらず、ため池の堰堤側からの距離によって同心円状に描かれている。

## 問 3

正解は④。

十三湖におけるシジミ漁に関する資料をもとに、説明文の正誤を判定し、誤りを選ぶ。正解肢の選択の根拠は資料の内容とは関連しておらず、単純に選べてしまう。

誤りは④。「地理的表示保護（GI）制度」発祥のヨーロッパでは、GI 制度の 1 つである PDO（原産地呼称保護）によってシャンパーニュ（発泡性ワイン）やパルミジャーノ・レッジャーノ（チーズ）など、高級な飲食物の名称が保護されている。日本でも 2014 年に法整備が行われ、夕張メロン、特産松阪牛、越前がになどが登録されている。この制度は、その土地ならではの気候・風土・歴史が育んだ品質や評価を持つ産品を、地域の知的財産として登録・保護するものである。行政が模倣品

を不正競争として取り締まることで、生産者を価格競争から守り、ブランド価値を維持・向上させる仕組みである。よって、「低価格での販売」は目的ではない。

①は正しい。汽水は河口付近や潟湖、湾内などにみられる。

②は正しい。空中写真の範囲では終戦直後の食糧増産政策に伴い大規模な干拓事業が行われ、半円形の堤防に囲まれた区域が陸地化した。1955 年の空中写真から、この堤防を「自然に形成された砂州」と誤解するかもしれないが、1948 年からわずか 7 年という短期間で自然に形成されたとは考えにくく、人為的な構造物であることは明らか。

③は正しい。小さいシジミは「ジョレン」の大きな網の目をくぐり抜けてしまうので、その漁獲は抑制される。こうして乱獲による資源減少を防いでいるのである。

## 問 4

正解は②。

日本のリンゴ輸出先に関する統計表、台湾のリンゴ輸入先に関するグラフをもとに、会話文の空欄を補充する語句や記号を選んで組み合わせる。シについては、日本におけるリンゴの旬を考えてみるとよい。

サは増加。会話内容から、そもそも 2008～2010 年の輸出量に比べ、2018～2020 年の輸出量が 1.4 倍になっていることがわかる。さらに東南アジア諸国で比べると、2008～2010 年ではタイとインドネシア合わせて 1.8%で、その他も全て東南アジア諸国だとしても 2.9%にしかならないが、2018～2020 年では、タイだけで 3%である（ベトナム、シンガポールを加えると 4.8%）。総量も割合も高まっているから、輸出量は明らか増えている

シは B。図 2 では、輸入量の季節変動においてアメリカ合衆国と凡例 B が類似しており、A は他 2 国と異なる。このことから A は南半球のチリ、B はアメリカ合衆国と同じ北半球の日本とわかる。リンゴの旬（収穫のピーク時期）は冬である。

第 3 問

解答

問 1	9	④
問 2	10	③
問 3	11	①
問 4	12	③
問 5	13	⑤
問 6	14	④

## 解説

## 問 1

正解は④。

世界の 3 つの海域について、海底の陰影起伏図との対応づけの判別を組み合わせる。プレート境界との関係や、境界の種類を考慮する。用語だけでなく視覚的イメージで理解していたかどうか問われる。

A はイ。A は日本列島の太平洋側の海域であり、太平洋プレートがフィリピン海プレートの下に沈み込む狭まる境界に当たる。プレートの沈み込み帯では、境界に沿って深い凹地形である海溝（ここでは伊豆・小笠原海溝）が形成される。

B はウ。B はハワイ諸島の北西海域であり、海山列が形成されている。これは、ホットスポット（境界から離れたプレート中央部でマグマを供給する局所的な熱源）上にあるハワイ島付近で誕生した火山島が、太平洋プレートの移動に伴って北西へ運ばれ、沈降や浸食によって高度を下げ、海面下に没したものである。

C はア。C は大西洋の中央部に位置する海域であり、プレートの広がる境界である大西洋中央海嶺が南北に伸びている。そこでは海底火山が連なる海嶺のほか、海嶺の軸を細かく寸断するように直交するトランスフォーム断層を明瞭に観察することができる。

## 問 2

正解は③。

いくつかの観測地点における大気中の二酸化炭素濃度の推移を示したグラフにおける凡例を判別した記号と、グラフについて説明した文の空欄を補充する語句をそれぞれ選択して組み合わせる。グラフの上下が季節変動を表している点では、第 2 問の問 4 のグラフ判読と類似する。なお、二酸化炭素濃度の推移グラフは、2025 年(追試)の第 3 問・問 5 でも扱われている。

ニュージーランドはキ、x は植物。二酸化炭素濃度は全体として増加傾向にある（温室効果ガスの増大として地球温暖化を促している）が、一方で季節による 1 年周期の上下を示しているのは、植物の光合成の影響を受けるためである。すなわち、夏季には植物による光合成活動が盛んになって二酸化炭素吸収量が呼吸による放出量を上回って、大気中の濃度が低下するのである。キのグラフは毎年 1～3 月ごろに谷がみられるので、その時期が夏となる南半球の地点である。北半球の 2 地点に比べて季節変動の幅が狭く谷が浅いのは、南半球は北半球の半分程度と陸地が狭く、光合成を行う植物の量が少ないためである。また、海域が広いため海洋による二酸化炭素の吸収・放出が季節変動の影響を弱めている。

## 問 3

正解は①。



日本における3種類の土壌の分布図と、各土壌を説明した文章との対応付けを判別して組み合わせる。用語としては出題されていないが、黒ボク土や沖積土は新課程の地理探究の教科書で初めて登場したもので、かつ一部の教科書でしか触れられておらず、受験生にとっては厳しいものであった。

サはE。E文が示す土壌は間帯土壌の黒ボク土。風化した火山灰を母材として厚い腐植層をもつ黒ボク土は日本やニュージーランドなどに特有の土壌である。腐植（植物の遺骸などの有機物）を含まない下層には関東ローム層などの火山灰層がある。酸性が強くリン酸供給力が低い土壌だが、多量の施肥によって畑作地として利用されている。母材となる火山灰は、偏西風の影響で火山の東方に堆積するため、黒ボク土の分布もこれに従う。富士山や箱根、浅間山の火山灰が堆積した関東平野や、支笏湖周辺や十勝岳の火山灰による北海道南東部がその典型である。他にも過去に火山活動がさかんだった東北北部、九州南東部にも分布し、サ図がこれらの傾向を最もよく示している。

シはF。F文は沖積土。沖積土とは、河川によって運搬され洪水などで低地に堆積した土砂に腐植が混ざった肥沃な土壌である。河川下流の氾濫原や三角州などの低湿地に分布しており、日本では水田として利用される。シ図では主要河川の流域に分布が多く、山地に少ないことが読み取れる。

スはG。G文は成帯土壌の褐色森林土。褐色森林土は温帯気候に対応し、落ち葉などの腐植が豊富な落葉広葉樹林地帯（日本では山地や丘陵地）に分布する。ス図は特に西日本において山地・山脈の位置と土壌分布が重なっている。

#### 問 4

正解は③。

アメリカ合衆国・カナダにおける湿地・湖沼の分布図中の4地点に関する説明文を判別し、五大湖周辺の地点に該当する文を選択する。現状だけでなく、現在の地形を作ってきた過去の経緯の理解が必要となる。

範囲チは③。北アメリカ大陸の北半は、約1万年前まで続いた最終氷期には大陸氷河（ローレンタイド氷床）に覆われていた。氷河は範囲チ付近にまで広がっていたため、その侵食により五大湖などの湖沼が形成された。

範囲タは①。夏季にコケ類などが繁茂するツンドラである。

範囲ツは②。ミシシッピ川の河口にあたるニューオーリンズ付近では、沿岸流の侵食作用よりも河川の堆積作用のほうが強く、鳥の足あとのような堆積地形がメキシコ湾に突き出している。これが鳥趾状三角州である。

範囲テは④。フロリダ半島の南端は熱帯気候となっている。マングローブとは熱帯・亜熱帯の潮間帯で、汽水域に発達する森林のことである。

#### 問 5

正解は⑤。

水資源量に関するグラフにおいて、3つの地域名と3つの記号との対応付けを判別して組み合わせる。水資源量と1人当たり水資源量の関係から、人口規模を推定できる。アジアを例にとると、水資源量 約 19 千  $\text{km}^3$  を 1 人あたりの水資源量 約 4 千  $\text{m}^3/\text{人}$  で割れば人口が求められる。 $\text{km}^3$  が  $\text{m}^3$  の 10 億倍であることに注意して、 $19 \text{ 千 km}^3 \div 4 \text{ 千 m}^3/\text{人} \div 47.5 \text{ 億人}$  となり、ほぼ正確な数値が得られる。同様に、厳密な値ではないが3地域の人口規模がわかる。

J  $18 \text{ 千 km}^3 \div 42 \text{ 千 m}^3/\text{人} \div 4.3 \text{ 億人}$

K  $3.5 \text{ 千 km}^3 \div 5 \text{ 千 m}^3/\text{人} \div 7.0 \text{ 億人}$

L  $1.8 \text{ 千 km}^3 \div 40 \text{ 千 m}^3/\text{人} \div 0.5 \text{ 億人}$

各地域の人口をおおまかに頭に入れていれば、この時点で判別できる。

オセアニアは L。オセアニアで大きな割合を占めるオーストラリア大陸で考えると、大陸中央部は砂漠で降水量が少ないため水資源量も小さいが、3地域のうちで最も人口規模が小さく、1人当たりの水資源量はきわめて大きくなる。

南アメリカは J。赤道上で降水量がきわめて大きいアマゾン川のほか、ラプラタ川、オリノコ川など湿潤地域を流れる大河川が多く、水資源量自体が大きい。

ヨーロッパは K。3地域のうちで最も面積が小さく、最も人口の多いヨーロッパでは、1人当たりの水資源量はきわめて小さくなる。

## 問 6

正解は④。

ある火山の災害別ハザードマップについて、災害の種類の判別と、説明文中の空欄を補充する語句の選択を組み合わせる。考えにくい問題だが、土石流という災害のすがたはしっかり理解しておきたい。火山灰の降下する方位については問3のサ図の説明と関連している。ちなみに、資料1は浅間山（群馬県・長野県）のハザードマップである。

積雪期の融雪型火山泥流は Q。資料1中にあるように、融雪型火山泥流は積雪が融けて生じる泥流なので、冠雪した山体の南北どちら側にも生じうるが、冬の北西季節風による積雪量の多い北側で比較的多く生じる。また、噴火の熱が直接伝わりやすい火口周辺の熱源に近い上流から泥流が始まる。

一方、無雪期の土石流はおもに夏の台風や梅雨などの大雨をきっかけに発生する。火山灰が堆積した不安定な溪流沿いで生じやすく、谷口から土砂が扇状に広がるようすが P に示されている。扇状地はこうした土石流などの堆積が繰り返されて作られたものである。山体の南斜面は傾斜が急で深い谷が発達しており、夏の湿った空気が南東季節風に影響を受けて地形性降雨をもたらす。

M は東側。上空を西から東に吹く偏西風の影響で、火山灰は火口の東側に多く降り積もる。

第 4 問

解答

問 1	15	③
問 2	16	②
問 3	17	①
問 4	18	①
問 5	19	④

## 解説

## 問 1

正解は③。

3 種類の天然繊維の生産量に関する統計地図（図形表現図）、および各繊維の説明文から綿花に該当するものをそれぞれ選んで組み合わせる。「亜麻」は、教科書では扱われておらず、受験生には馴染みが薄い。しかし、直接的な情報がなくても、ジュートと綿花が判別できれば回答可能である。

綿花はアと C。綿花栽培は、温帯から熱帯にかけての、生育期には十分な雨があり、収穫期には乾燥して晴天が続く地域が適している。ステップ気候などの乾燥地域では灌漑が必要となる。インドのデカン高原、中国の華中～華北、アメリカ合衆国南部のコットンベルトのほか、中央アジアや地中海沿岸などが代表的な産地である。

ジュートはイと A。麻袋やロープなどの原料となるジュートの栽培は、ガンジス＝ブラマプトラデルタの広がるインド東部～バングラデシュのベンガル地方に集中している。収穫したジュートはガンジス川に浸して繊維を分離しやすくして加工する。

亜麻はウと B。B の文中の「混合農業」が盛んなのはヨーロッパである。特にフランスではノルマンディー地方を中心に亜麻の栽培が輪作に組み込まれている。亜麻の繊維は、衣服、寝具、テーブルクロスなどの布製品（リネン）に加工されるほか、種子からは食用のアマニ（亜麻仁）油を絞る。

## 問 2

正解は②。

化学繊維製造業と綿紡績業の都道府県別事業所数の変化を示したグラフから 2021 年の化学製品製造業に該当するものを選択する。図中の府県名にこだわりすぎると難しくなるので、資料中の文章に沿ってシンプルに考察したい。

2021 年は②と④。文中に「オイルショックや新興国の成長などもあり、繊維工業の国際競争力は低下」とあるので、事業所数は減少傾向にあると思われる。②・④が 1967 年とみると、上段の業種は微減だが下段の業種は 10 倍以上に増加することになるので説明文と矛盾する。

化学繊維製造業は①と②。文中に「高度経済成長期以降、石油化学コンビナートの整備などが進み、化学繊維製造業が発展」とある。1967 年は高度経済成長の真っ只中なので、上記のような傾向であっても①から②への微増はありえる。また、岡山県、山口県、兵庫県などは石油化学コンビナート所在地である。

一方、綿紡績業は③と④。以下の経緯は参考として記すが、愛知県（旧三河・尾張国）では江戸時代から濃尾平野などを中心に、温暖で水はけの良い気候・地形を活かした綿花栽培が盛んであった。また、明治期の産業革命において、大阪府は大規模な機械紡績業の集積地として発展し、「東洋のマンチェスター」とも呼ばれた。

## 問 3

正解は①。

日本の衣料品の輸入相手国の変化に関する統計表において、バングラデシュに該当するものを選択する。衣服のタグに書いてある「Made in ○○」も地理学習の材料である。日頃の生活も役立ててほしい。

バングラデシュは①。2000 年代後半、以前から主要な衣料品輸入先であった中国での人件費高騰や労働力不足、カンントリーリスクを背景に、日本企業が生産拠点を中国から東南アジアや南アジアへ分散させる動きが強まった。その有力な移転先として、1980 年代から欧米企業の進出が先行していたバングラデシュが選ばれ、ユニクロ（ファーストリテイリング）などの日本の大手アパレル企業が大規模な生産拠点を構築した。そのため、この期間の指数の伸びが最大である。

韓国は④。1990 年代までに重化学工業化が進展して先進国となった韓国からは、衣料品のような軽工業品の輸入額はごくわずかに過ぎない。

中国は③。2000 年代に「世界の工場」として工業製品の輸出が拡大した中国は、軽工業分野においても 20 世紀までと同様に日本にとって重要な製品輸入先であり、衣料品においては輸入額の 8 割を占めた。近年は上記のような要因から中国依存度は低下したが、それでも 5 割近いシェアは維持している。

ベトナムは②。中国一極集中のリスクを分散するため、2000 年代から日本企業のベトナムへの進出が進んだ。品質の高さに加え、政治的な安定性や距離的な近さから、現在では中国に次ぐ生産拠点となっている。

## 問 4

正解は①。

3 品目の小売業における店舗立地の統計グラフのうち衣料品・身回品小売業に該当するものを選択し、また凡例において都市中心部に当たるものを選択し、記号を組み合わせる。グラフの判別と凡例の判別を連動して誤る危険があり、受験生を悩ませる設問である。

衣料品・身回品小売業はカ、都市中心部は E。衣料品・身回品や飲食料品は、いずれも毎日のように繰り返し購入する最寄り品であり、徒歩で来店する客が多い。そのため、店舗の多くは人流の多い駅周辺や商店街などの都市中心部に立地する。一方、自動車（キ）のような耐久消費財は、商品を比較しながら計画的に購入する買い回り品であり、商圈の広い幹線道路沿いなどに立地する。とくに自動車を販売する店舗には一定の敷地面積が必要なうえ、自動車で来店する客が多いため、郊外のロードサイド（F）に立地する店舗の割合が高くなる。

## 問 5

正解は④。

世界の中古衣料品類の貿易額を表す統計地図（図形表現図）とその説明文について、輸入に該当する図の記号と、文章の空欄を補充する語句をそれぞれ選択して組み合わせる。ファストファッションの大量生産を背景とした中古衣料品の再資源化や貿易、廃棄に伴う環境問題については、2025年の東京大学の入試問題などでも取り上げられた現代世界の重要論点の1つとなっている。

なお、ファストファッションとは、低価格の衣類を途上国の生産拠点で大量生産し、短いサイクルで先進国の市場に供給するアパレル産業のビジネスモデルのことで、スペインのZara、スウェーデンのH&M、日本のユニクロ、GU、しまむらなどのブランドが知られる。

輸入はK。ファストファッションによる安価な製品の大量販売は、先進国の消費者による頻繁な購入と使い捨てを招いている。よって、中古衣類の輸出は欧米や日本などからが多く、Jが該当する。一方、それらを受け入れているのは中南アフリカや南アジアなどの発展途上国が中心であり、輸入はKが該当する。

サはEU。上記のように、ファストファッションを含む国際的なアパレル企業の本社はEU諸国などの先進国に多く立地する。

第 5 問

解答

問 1	20	④
問 2	21	②
問 3	22	⑤
問 4	23	②
問 5	24	③
問 6	25	②



## 解説

## 問 1

正解は④。

世界の 4 地域における人口密度と 1 人当たり穀物生産量の統計表から、南アメリカに該当するものを選択する。解答だけを選ぼうとするのではなく、4 つのうち決めやすいところから決めていけばよい。とすれば、決定しやすいヨーロッパやアフリカを先に判断すると考えやすい。

ヨーロッパは①。平坦な地形と湿潤気候に恵まれたヨーロッパはモンスーンアジアと並ぶ人口稠密地域であり、南北アメリカやアフリカに比べ著しく人口密度が高い。ただし、少産少死型の先進国が多く、人口増加率は低位であるため 1970 年から 2020 年までの人口密度の上昇率は小さい。具体的には、 $114.3 \div 97.4 = 1.17\cdots$ より 17%上昇だが、他の 3 地域は 64~277%上昇している。各地域の面積は一定だからこれらの数値は人口の増加割合でもある。

アフリカは③。上記の 277%上昇、つまり 4 倍近い人口増加は③のデータであり、多産多死型から多産少死型に進む国が多く、人口爆発を起こしているアフリカに該当する。一方、資金不足や政治の不安定を抱えるアフリカでは、農業の生産性の向上が遅れており、生産の拡大が人口増加に追いつかないため、もともと低い 1 人当たり穀物生産量がさらに低下している。

北アメリカは②。針葉樹林に覆われたカナダや、国土の西半が乾燥地域であるアメリカ合衆国の人口密度は低いが、大規模かつ合理的な輸出向けの企業的穀物農業が展開されており、1 人当たり穀物生産量は他の地域に比べて高い。

以上より、南アメリカは④となる。近年はブラジル、アルゼンチン、ウルグアイなどで大型機械の利用や遺伝子組み換え作物の播種を伴った企業的穀物農業が導入されており、人口が 2 倍以上に増加しているにも関わらず、1 人当たり穀物生産量も 2 倍以上に伸びている。

## 問 2

正解は②。

いくつかの国における、当外国出身の国外居住者と当該国における外国人居住者の相関を示したグラフにおいて、3 か国を判別して組み合わせる。外国人居住者の大半は労働移民であり、移民が多く住んでいるということは、経済的に豊かで仕事が多いということである。アとイの判別がポイントだが、国の総人口も参照したい。

アラブ首長国連邦（UAE）はア。UAE はペルシャ湾に面した乾燥気候の小国であり、原油の生産・輸出が盛んで、日本にとって最大の原油輸入相手国[2024 年]である。UAE の最大都市ドバイでは産業の多角化をめざして都市建設・インフラ整備に力を入れているが、自国民人口は少ない（総人口約 1100 万人[2024 年]の 1 割程度とされる）ため不足する建設労働力を多くの外国人の受け入れで補っている。一方、他の 2 国に比べ自国民の人口規模がきわめて小さく、国外居住者はほぼゼロに近い。



インドネシアはウ。総人口が 2 億 8 千万人を超える大国であるが、1 人当たり国民総所得（GNI）は 4810 ドルであり、他の 2 国の 10 分の 1 程度に過ぎない（統計年次は 2023 年）。よって、より高い所得を求めて、経済水準の高い他国への移民（当該国出身国の国外居住者）を多く送り出している。おもな移住先は東アジア（台湾・ホンコン・韓国・日本）の他、マレーシア、サウジアラビアなどである（インドネシアがイスラーム信者＝ムスリムの多い国であることにも注意）。

フランスはイ。先進国であるフランスには、旧フランス領であったアルジェリア、モロッコなど、距離的にも近い北アフリカからの労働移民が多く流入している。また、EU 内ではドイツについて多い 6800 万人超の人口（2023 年）を抱え、移動の自由が保証されたヨーロッパのシェンゲン圏内を中心として多くの国民が主に高度技能や管理部門などの就業のために国外に居住している。具体的な居住国は、隣接国のうちフランス語圏を持つスイスやベルギー（スイスは EU 非加盟だがシェンゲン協定は参加）、ビジネス機会の多いアメリカ合衆国やイギリス、やはりフランス語圏（ケベック州）のあるカナダなどである。

### 問 3

正解は⑤。

3 か国における人口の自然増加率（出生率と死亡率の差）の推移を示したグラフと、人口ピラミッドの変化を示したグラフから、それぞれメキシコに該当するものを選んで組み合わせる。いわゆる「人口転換のモデル」を十分に理解しておくことが重要である。

メキシコは B とキ。新興国のメキシコでは、1990 年代までは多産少死の人口動態を示し、かつての富士山型の人口ピラミッドから釣り鐘型へと移行する過程であった。この段階では人口増加率は高位が維持され、生産年齢人口の割合が高く、これが豊富な労働力となって経済成長を促す「人口ボーナス」期にあった。今後は少産少死の壺型へと移行すると考えられる。

フィンランドは C とカ。北欧の先進国であるフィンランドでは、早い時期から人口動態が少産少死に移行して人口増減は停滞期に入っており、人口ピラミッドは釣り鐘型から壺型への変化が進んでいる。著しい少子化と高齢化は、長期的に生産年齢人口割合を低下させ、「人口オーナス（負担の意味）」となっている。

マリは A とク。サハラ砂漠南縁のサヘルに位置する最貧国の 1 つであるマリは、農村経済に依存した社会環境（こどもも労働力と期待される）を背景にきわめて高い出生率を示す一方、貧困による栄養不足や劣悪な衛生環境、医療サービスの不足などから乳幼児死亡率が高く、これまで多産多死、富士山型ピラミッドの状況にあった。近年は乳幼児死亡率がやや抑えられて多産少死へと進みつつあり、自然増加率はきわめて高くなっている。

### 問 4

正解は②。

アメリカ合衆国の2つの都市圏における中心都市と周辺地域それぞれの住民の職業別就業者割合のグラフで、都市圏の判別と凡例の判別を組み合わせる。凡例のサとシを先に判別したいが、決定的な判断要素が不足しているため、あれこれ迷いやすい。内容的にも形式的にも難易度が高い設問であった。

生産・輸送職はシ。アメリカ合衆国では、産業構造の転換によって管理、研究・開発などの部門や、金融・サービス・情報などの産業が成長する一方、生産拠点のメキシコなどへの移転に伴う製造業の空洞化が進み、生産部門で働くブルーカラーの割合は低い。サを管理的・専門的職業（ホワイトカラー）、シを生産・輸送職とおけば、後で見る都市圏の判定も矛盾なく行える。

ニューヨーク都市圏はE。Eでは中心都市と周辺地域で就業者割合に大きな違いがないので、その差が大きいFから考える。

米国で最も歴史の古い自動車産業の集積地であるデトロイトでは、産業の国際競争力の低下を背景に、工場の郊外移転や製造工程の自動化による失業者の増加、白人を中心とした中産階級・富裕層の郊外脱出などにより、都心近くのいわゆるインナーシティにおける荒廃が進行した。これによって税収を失ったデトロイト市では2013年に財政が破綻している。結果としてデトロイト都市圏の中心都市には、老朽化した集合住宅に住む比較的低賃金の工場労働者（アフリカ系黒人や移民中心）が多く、管理部門などに就く白人富裕層が戸建て住宅に住む周辺地域との差が大きくなっている。

典型的な工業都市であるデトロイトと異なり、ニューヨークには多様な知識集約型産業が集積しており、都心部は世界最高レベルのビジネス拠点として高収入を得るホワイトカラーの職場になっている。このため、インナーシティの荒廃に苦しむデトロイトに対し、ニューヨークの都心部では再開発が強力に推し進められて富裕層が流入するジェントリフィケーション（高級化）が生じている。また、ニューヨークにおける地下鉄などの公共交通の発達には、都心と郊外の時間距離を短縮し、両者の分断を防いでいる。これらのことから、中心都市と周辺地域の差が小さくなっているのである。

## 問5

正解は③。

日本の就業や生活環境に関する3つの指標を表す統計地図（階級区分図）を判別して組み合わせる。持ち家住宅割合は、世帯（または人口）当たり自動車保有台数とともに共通テスト（センター試験も含む）では頻出のデータである。内容的にも形式的にも比較的处理しやすい設問であった。

第一次産業就業者割合はチ。商工業の発達した関東、近畿、中京などが低位で、これらの大都市圏から遠い地方圏で高い。

平均通勤・通学時間はタ。チで低位だった地域は、中心部の地価が高いことなどから郊外に住宅地が発達して通勤・通学時間が長くなりやすい。

持ち家住宅割合はツ。主に北陸および東北の日本海側で高く、東京・大阪などで低い。北陸などは大都市圏に比べて地価が安いこと、伝統的に多世代同居の割合が高いこと、豪雪地帯の積雪に耐えうる家を持ちたいという意識が強いことなどが理由とされる。

## 問 6

正解は②。

ある地方都市における人口集中地区の範囲などを示した地図に関して、会話文の正誤を判定し、適当でないものを選択する。下線部を一つ一つ確認していけば難しくない。なお、この都市は山形県鶴岡市と思われる（解法には影響しない）。

②は不適當。1980 年から 2020 年にかけて、人口集中地区（DID）人口は  $57328 \div 52920 = 1.083\cdots$  より 8%程度の増加であるが、DID の範囲は（目測ではあるが）2 倍近くに拡大しており、人口密度はむしろ低下している。

①は適當。1980 年の図で、城跡の周辺や駅の南側に複数の大型店舗が立地している。

③は適當。図の北部の主要道路沿いなどに大型店舗の記号がみられる。

④は適當。いわゆる都市のコンパクト化の説明になっている。

第 6 問

解答

問 1	26	②
問 2	27	①
問 3	28	④
問 4	29	②
問 5	30	④

## 解説

### 問 1

正解は②。

3 河川の河道沿いにみられるケッペン気候区分を模式的に示した図を判別し、3 河川名との対応付けを組み合わせる。河川名だけでなく凡例の気候帯も伏せられているので、構成の難易度が高い。

ドナウ川はア。ドナウ川の流域はヨーロッパ中南部にあり、全て温帯気候である。なお、上流は西岸海洋性気候、下流は温暖湿潤気候が多い。

ナイル川はウ。ナイル川は典型的な外来河川であり、湿潤気候に源流を持ち、中流・下流で乾燥帯を貫流する。ナイル川の場合、赤道上のヴィクトリア湖付近は熱帯のサバナ気候であるが、中・下流はすべて乾燥帯（砂漠気候やステップ気候）である。

メコン川はイ。源流のチベット高原は 4000m を超える標高の影響できわめて寒冷になるため、ケッペン気候区分では寒帯のツンドラ気候に分類される。中流では温帯の温暖冬季少雨気候、そして下流のインドシナ半島は熱帯でのサバナ気候である。

### 問 2

正解は①。

ハルツームとプノンペンの景観写真と、それぞれの都市の状況を説明した文章のうち、プノンペンに該当するものをそれぞれ選んで組み合わせる。ハルツームはスーダンの首都、プノンペンはカンボジアの首都である。

プノンペンの写真はカ、文章は A。カンボジアを含めたインドシナ半島には仏教が広まっている。写真には仏教寺院（ワット=ウナロム）やバイクの後ろに荷台を連結したトゥクトゥクなどが写っている。カンボジアではかつての内戦で大きな痛手を受けたが、現在は復興しつつある。

ハルツームの写真はキ、文章は B。スーダン北部の首都周辺にはイスラームを信仰するアラブ系民族が居住する。南部のキリスト教や伝統宗教を信仰する非アラブ系との対立が激しく、さまざまな紛争を経て 2011 年には非アラブ系による南スーダンの分離・独立が達成されたが、その後も国境付近の石油資源を巡る対立は続いている。写真にみられるイスラーム寺院（モスク）の特徴的な玉ねぎ状のドーム型屋根や尖塔（ミナレット）は読み取れるようにしておきたい。

### 問 3

正解は④。

オーストリアのドナウ川周辺における国境を通過する貨物量と輸送手段別割合に関する統計グラフについて、上流側と下流側、および輸送手段の凡例をそれぞれ選択して組み合わせる。西ヨーロッパと東ヨーロッパとの経済状況を前提に考察する。

上流側はシ。上流側のドイツは EU 最大の工業国である。そのドイツとの貿易品目は、主に自動車部品、機械類、化学製品などの高付加価値な工業製品であり、部品を相互に送り合い、最終製品を組み立てるサプライチェーンの結びつきが強い。オーストリアにとってドイツは貿易額の約 3 割を占める最大の相手国となっている。

一方、下流側の東欧諸国との貿易品目は上りと下りで不均衡である。オーストリアは下流諸国から鉄鉱石、石炭、穀物などの一次産品を主に輸入し、オーストリアからは、それらを加工した金属製品、肥料、紙製品などが輸出されるが、オーストリア側から見た輸出超過となっている。

よって、輸送量を比較すると上流側が圧倒的に大きくなる。

船舶は E。船舶輸送は他の手段に比べて大量の物資を安価に運べるが、速度が遅いうえ河港での積み替えも必要で利便性も低い。よって、船舶を利用する貨物は、かさばるが単価が低く、一度に大量に運ぶ必要がある鉱石や穀物などのばら積み貨物である。したがって上記の下流諸国からの輸入品に適している。

## 問 4

正解は②。

3 河川の流域国における水資源の国外依存度を示した統計地図（階級区分図）について、説明文の正誤を判定し、適当でない文を選択する。正解肢の判別に前提となる知識は不要で、与えられた情報だけで正解できる。

②は不適当。ドナウ川におけるポーランドやイタリア、ナイル川におけるコンゴ民主やタンザニア、メコン川における中国やミャンマーなど、流域と国土の重複が小さい国ほど国外依存度は低くなっている。国外依存度が高くなるのは、これらの国際河川の下流域で上流国からの河川水を利用しているケースである。

①は適当。図から明らかである。

③は適当。上流の中国・雲南省では多くの発電ダムを建設し、電力需要が急増する沿岸部へ電力を送る「西電東送」プロジェクトの一環となっている。

④は適当。例えばエチオピアに建設された大エチオピア・ルネサンスダム（GERD）による大規模な水資源活用は、下流のエジプトなどにおける水供給量の減少に直結する懸念があり、国家間の対立要素となっている。

## 問 5

正解は④。

3 河川の流域国における 1 人当たり GDP（国内総生産）の平均値や変動係数の変化に関する統計について、メコン川に該当する表中の記号と、文章の空欄を補充する語句をそれぞれ選択して組み合わせる。表の 3 河川の判別は経済水準から容易に可能だろう。

メコン川は K。メコン川流域には、新興国である中国、ベトナム、タイなどが含まれており、1995～2023 年の 1 人当たり GDP の伸び率が最も高い K に該当する（K は  $4878 \div 756 \div$  約 6.5 倍、J は約 2.7 倍、L は約 4.1 倍）。1 人当たり GDP が圧倒的に大きい J が先進国地域を流れるドナウ川、最も小さい L がアフリカの最貧国を含む発展途上国を流れるナイル川に該当する。

x は域内での国際分業。国際分業とは、問 3 で説明したドイツとオーストリアにおけるサプライチェーン結合のようなものであり、EU の共同市場における無関税での貿易が前提となっている。東南アジア諸国でも ASEAN における AEC（ASEAN 経済共同体）の結びつきにおいてほとんどの関税が撤廃されており、また、ASEAN と中国の間でも ACFTA（ASEAN 中国自由貿易協定）による関税引き下げなど経済連携が強化されている。しかし、単一通貨の導入については、ユーロを導入した EU に限られる。